様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１０８２５

研究課題名（和文）スポーツツーリズム参加人口拡大にむけたスポーツツーリストの理解

研究課題名（英文）Understanding Sports Tourist Behavior to Expand the Sports Tourism Population

研究代表者
備前　嘉文（BZEN, YOSHIFUMI）

國學院大學・人間開発学部・准教授

研究者番号：８０５８４８０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、都市型市民マラソンに参加したランナーを対象に調査を行い、その結果から、マラソン大会に参加するランナーの参加行動について明らかにした。具体的には、多くのランナーはマラソン大会に参加するために日頃から時間のマネジメントや金銭的マネジメント、スキルの獲得といった取り組みを行っていることが明らかとなった。また、金銭的マネジメントについては、価格感度測定法を用いて大会参加費に関する受容価格帯を算出し、大会に宿泊を伴って参加するスポーツツーリストと開催地域参加者の比較も行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年、全国各地でマラソン大会が開催されることにより大会同士での競争も激しさを増している。継続的にマラソン大会を開催するにあたっては安定的に参加者を獲得することは必要不可欠である．本研究で実施した調査から得られたマラソン大会参加ランナーの個人属性やランニング実施状況、大会参加状況、宿泊の有無、ランナーが大会への参加を検討するにあたり感じた制約やその制約を解消するためにどのような行動を行っているかといった研究成果は学術的意義があり、今後の自治体やスポーツ関連組織がスポーツツーリズム人口の拡大に向けて活用が期待されるという社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, I surveyed runners who participated in an urban marathon, and the results revealed the participation behaviors of runners in marathon events. Specifically, the study showed that many runners routinely participate in marathons in time management, financial management, and skill acquisition. For financial management, I used price sensitivity measures to calculate the acceptable price range for marathon participation fees and compared the results between sports tourists who participate in marathons with overnight stays and participants in the host area.

研究分野：スポーツマネジメント

キーワード：スポーツツーリズム　スポーツイベント　レジャー参加　制約　交渉

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

観光とスポーツを融合させ、スポーツを観光資源として地域に人を呼び込む「スポーツツーリズム」に注目が集まり、マラソン大会やトライアスロン大会をはじめとする参加型のスポーツイベントが全国各地で開催されていた。2011（平成 23）年には、スポーツ資源を生かし訪日外国人旅行や国内旅行の振興を図るとの趣旨で「スポーツツーリズム推進基本方針」が取りまとめられ、官民を挙げてスポーツツーリズム活性化に向けた取り組みがおこなわれている。訪日外国人旅行者数は増加しているものの、国内旅行者数の減少により産業としての観光は年々縮小傾向にあるなかで、スポーツツーリズムの促進は、今後の国内観光産業および経済の活性化にむけて重要な課題であった。

２．研究の目的

スポーツツーリズム参加人口拡大のための方策を見出すために、下記の目的を設定した。

① マラソン大会参加ランナーの個人属性やランニング実施状況、大会参加状況、宿泊の有無などの参加行動について明らかにする。

② スポーツイベントに参加するスポーツツーリストが、スポーツイベントへの参加を検討する際にどのような要因を参加の妨げとなる「制約」と考え、どのような取り組みをおこなうことでその「制約」を解消しているかを顕在化させる。

③ 制約を解消する取り組みである交渉の中でも特に金銭的マネジメントに焦点をあて、価格感度測定法を用いて大会参加費に関する受容価格帯を算出し、大会に宿泊を伴って参加するスポーツツーリストと開催地域参加者の違いを明らかにする。

３．研究の方法

① 制約および交渉を測定する尺度の検討

レジャー活動への参加を検討するにあたり生じる制約に関しては、参加者個人の心理的状況に由来する「個人内の制約」、参加者と他者との関係に由来する「対人的制約」、イベントを取り巻く環境や状況に基づいた「構造的制約」の 3 つが挙げられている（備前・二宮ら，2016）。そして、それらの制約を解消する取り組みに関しては、「金銭的マネジメント」、「時間のマネジメント」、「対人的調和」、「スキルの獲得」の 4 つがあるとされている（Jun，2011）。それらの先行研究を踏まえながら、参加者が「①スポーツイベントへの参加を検討する際に生じる制約」と参加者が「②制約を解消するためにおこなう取り組み」について項目を抽出し、複数の専門家と合議のうえ項目の精査・分類・語彙の修正を行った。

② スポーツツーリストを対象としたアンケート調査の実施

2019 年 12 月に開催される奈良マラソンにインターネットを通じて申し込んだ参加者約 9，000 名を対象に、前年に検討した項目を用いたアンケート調査を実施した。具体的な調査方法としては、大会終了後に大会実行委員会から参加者に送信されるメールの中にアンケート調査への協力を依頼し、承諾した参加者が指定のリンク先のサイトにて「奈良マラソンへの参加を検討した際に生じた制約」と「奈良マラソンへの参加を検討した際に生じた制約を解消するためにおこなった取り組み」についての質問を行った。そして、回収された回答の中から、まず参加ランナーの個人属性やランニング実施状況，大会参加状況，宿泊状況を明らかにした。

次に、宿泊を伴って奈良マラソンに参加したスポーツツーリストの分を取り出し、IBM SPSS Statistics および Amos を用いて「参加者がスポーツイベントへの参加を検討する際に生じる制約」と「参加者が制約を解消するためにおこなう取り組みである交渉」の検証を行った。そして最後に、価格感度測定法を用いてマラソン大会参加者の大会参加費に関する受容価格帯を算出し、大会に宿泊を伴って参加するスポーツツーリストと開催地域参加者の比較を行った。

４．研究成果

① マラソン大会参加ランナーの参加行動について

インターネット申し込みにてエントリーしたランナー15,448 名を対象として調査を行い、最終的にフルマラソン参加者 2.591 名から有効回答が得られた。性 別 に 関 し て は、男 性 が 1,954 名（75.4%）、女 性が 637 名（24.6%）であった。調査回答者の過去 1 年間に 3km 以上のランニング大会に出場した回数を聞いたところ、2~4 回が 1,122 名（43.3%）と最 も多く全体の 4 割以上を占める結果となった。また、ラ ンニング歴については平均 8 年、月間走行頻度は平均 10.8 回、月間走行距離は 108.6km という結果となった。

② マラソン大会に参加するにあたっての宿泊について

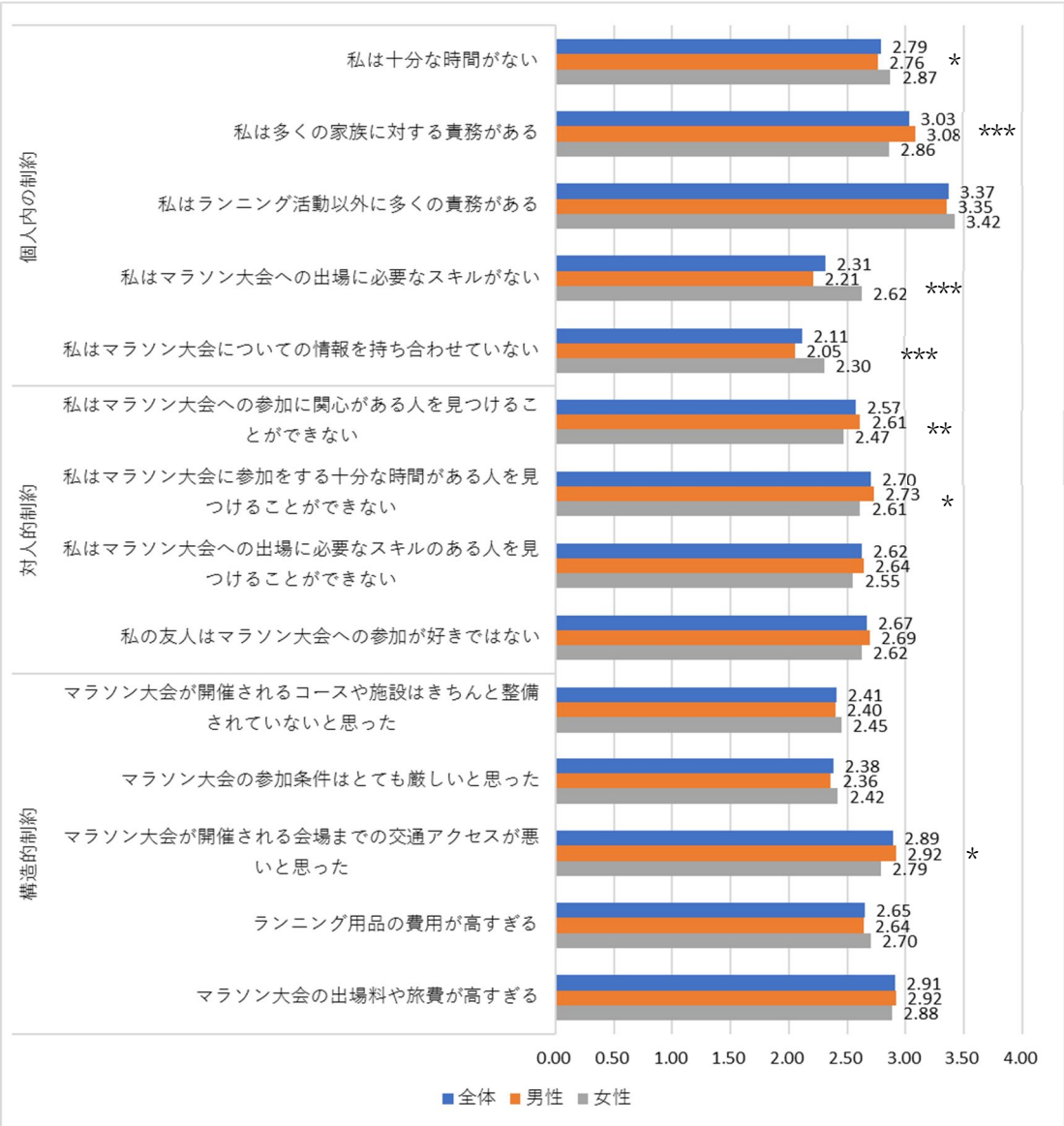
奈良マラソン 2019 に参加するための宿泊の有無について聞いたところ、自宅から日帰りの参加と回答したランナーが 1,837 名（70.9%）と最も多かった。一方で、全体の約 3 割のランナーが宿泊を伴ってマラソン大会に参加していたことも明らかとなった。

宿泊を伴って参加したランナー（スポーツツーリスト）のうち、居住地の郵便番 号が得られた 697 名についてさらに詳しくみたところ、500 名（71.7%）が近畿地方以外の都道府県からの参加者であった。兵庫県から参加の 86 名と大阪府からの参加の 61 名も宿泊を伴って参加していたが、 近隣の都道府県から参加したランナーの大半は日帰りでの参加であった。宿泊を伴って参加したランナーの宿泊施設については、奈良県内の宿泊施設に宿泊が 548 名（21.2%）、友人・知人宅に宿泊が 109 名 （4.2%）、大阪府内の宿泊施設に宿泊が 50 名（1.9%）であった。

③ 奈良マラソンへの参加を検討するにあたり感じた制約について

奈良マラソン 2019 への参加を検討す るにあたり感じた制約については、全体では「私はランニング活動以外に多くの 責務がある」と「私は多くの家族に対す る責務がある」の 2 項目のみが平均値 3.0 を上回った。このことから、ランナーは、マラソン大会への参加を検討するにあたっては、多くの制約の中でも特に家族に対してや仕事・勉強などランニング活動以外の責務を感じていることがわかる（図 1）。

④



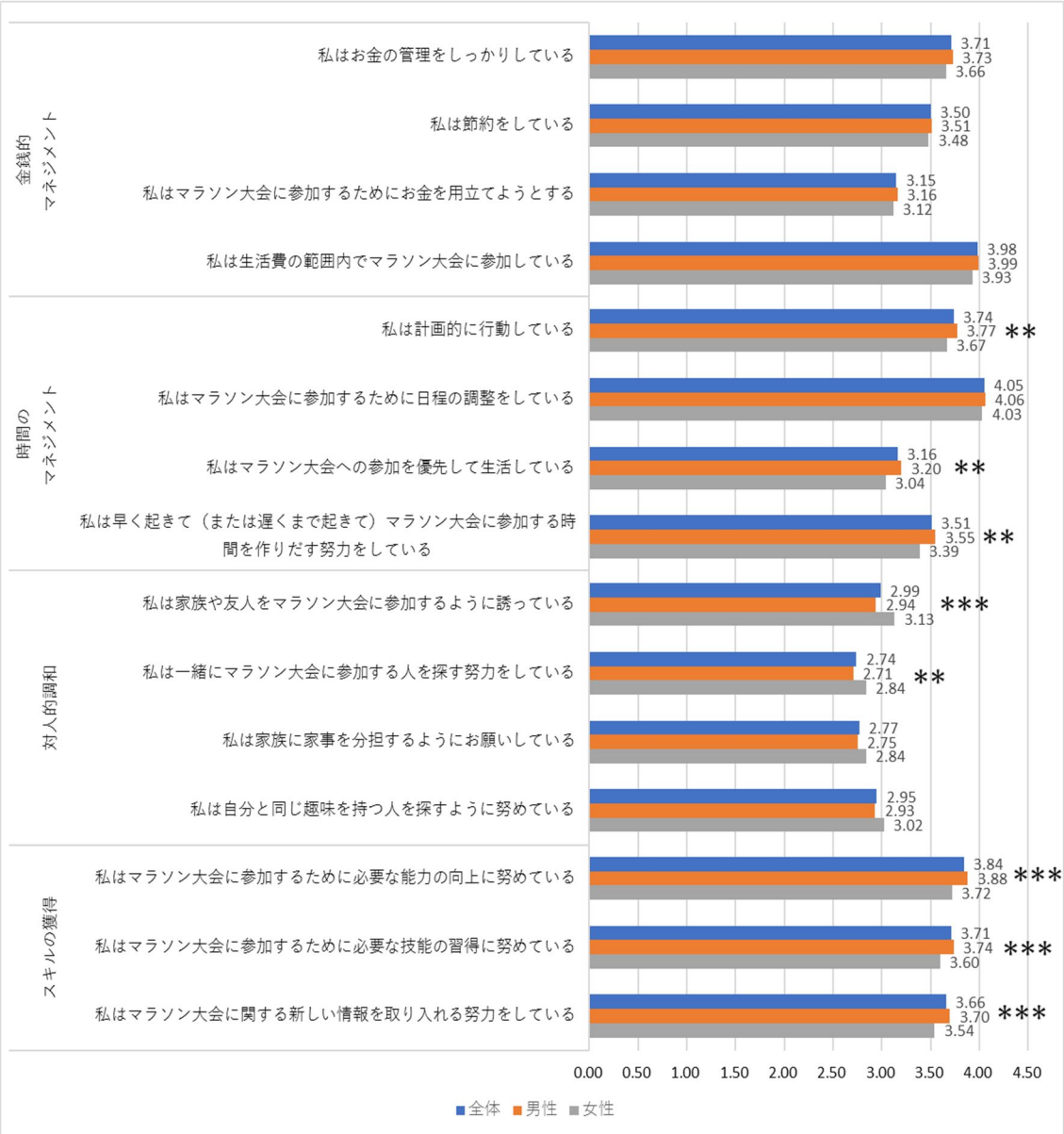
*p<.05 ** p<.01 ***p<.001 は 男女間で統計的に有意な差が見られた項目を示す

図 1 ランナーが日頃から行っている取り組み（男女の比較）

④　参加者が制約を解消するためにおこなう取り組みである交渉について

奈良マラソン 2019 に参加するにあたり日頃から行っている取り組みに関しては、「私はマラソン大会に参加するために日程の調整をしている」や「私は生活費の範囲内でマラソン大会に参加している」、「私はマラソン大会に参加するために必要な能力の向上に努めている」などの項目が高い値を示した。この結果から、多くのランナーがマラソン大会への参加に向けて、時間のマネジメントや金銭的マネジメント、スキルの獲得といった取り組みを行っていることがわかる。奈良マラソン 2019 に参加するにあたり日頃から行っている取り組みについても t 検定を用いて男女間の比較を行ったところ、「私は計画的に行動している」や「私はマラソン大会に参加するために必要な能力の向上に努めている」などの 9 項目で統計的に有意な差が見られた。

また、マラソン大会に参加するにあたり宿泊を伴って参加したランナーと日帰りで参加したランナー間でも t 検定による平均値の比較を行ったところ、「私はお金の管理をしっかりしている」や「私はマラソン大会に参加するために日程の調整をしている」などの 12 項目で有意な差が見られた。特に、マラソン大会に宿泊を伴って参加するランナーは日帰りで参加したランナーよりも、日頃から節約やお金の管理といった金銭的マネジメント、日程の調整などの時間のマネジメント、そして必要な能力の向上やマラソン大会に関する新しい情報を取り入れるなどのスキルの獲得を行っていることがわかる（図 2）。



*p<.05 ** p<.01 ***p<.001　は　宿泊なし・あり間で統計的に有意な差が見られた項目を示す

図 2　ランナーが日頃から行っている取り組み（宿泊なし・ありの比較）

⑤　大会参加費に関する受容価格帯について

価格感度測定法を用いて宿泊を伴って大会に参加するスポーツツーリストと宿泊を伴わない開催地域参加者の参加費に対する内的参照価格を算出し、両者の違いについて比較を行った。その結果、スポーツツーリストと開催地域参加者それぞれのマラソン大会参加費に対する受容価格帯を算出した。その結果、スポーツツーリストの受容価格帯は 7,889 円から 10,764 円、開催地域参加者の受容価格帯は 7,230 円から 10,250 円であり、両者の間に大きな差は見られなかった。このことから、マラソン大会に参加するランナーはすでに与えられた情報をもとに参加費に関する内的参照価格を形成し、金銭的マネジメントを実施していると考えられる。

【引用文献】

・備前嘉文・二宮浩彰・庄子博人（2015）都市型市民マラソン大会への参加における制約とランニング活動動向の関係：個人内の制約と対人的制約からの検討. 生涯スポーツ学研究. 12 (2): 15-23.

・備前嘉文・二宮浩彰・庄子博人（2016）市民マラソンランナーが都市型市民マラソン大会への参加を検討するにあたり生じる構造的制約. 生涯スポーツ学研究. 13 (2): 1-14.

・Jun, J., & Kyle, G. T. (2011). The effect of identity conflict/facilitation on the experience of constraints to leisure and constraints negotiation. Journal of Leisure Research, 43(2), 176–204.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 備前嘉文，二宮浩彰，胡 威，徐 嘉楓	４．巻 13
２．論文標題 都市型市民マラソン大会における参加費の受容価格帯： スポーツツーリストと開催地域参加者の比較	５．発行年 2021年
３．雑誌名 同志社スポーツ健康科学	６．最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 備前嘉文，二宮浩彰，胡 威，徐 嘉楓	４．巻 12
２．論文標題 都市型市民マラソンにおけるスポーツ消費者行動：奈良マラソン2019 の参加にあたりランナーが感じた制約とその解消行動	５．発行年 2020年
３．雑誌名 同志社スポーツ健康科学	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 徐嘉楓,胡威,備前嘉文,二宮浩彰	４．巻 11
２．論文標題 都市型市民マラソンにおけるスポーツ消費者行動 奈良マラソン2018参加者のクチコミ行動の分析	５．発行年 2019年
３．雑誌名 同志社スポーツ健康科学	６．最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Yoshifumi Bizen & Hiroaki Ninomiya
２．発表標題 Factors Affecting Sports Volunteer Participation: Leisure Constraints Negotiation Process in Sports Volunteering
３．学会等名 SMAANZ 2019 CONFERENCE（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 Yoshifumi Bizen & Daichi Oshimi	４．発行年 2022年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 N/A
３．書名 Handbook of Sport and COVID-19	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関